



東 北 方 面

石の巻町の道路改修

石の巻町の道路改修工事は豫算一萬六千圓を以て、石の巻驛前から立町を經内海橋に至る區間にして、本年度から着手しミツクスアスファルト舗装を施す筈であるが現在の立町一等道路は、車馬の交通が繁劇な極め、而も路幅狹隘で馬車の摺れ違ひも容易でなく、降雨の時に自動車が疾走すると

店頭は泥だらけとなり、石の巻の體面上到底現在の儘に放置しておくことは出来ないもので之れが改修方を屢々縣當局に陳情し、縣當局としても大いに考慮中であつたのであるから、多分本年度事業として、明年から着手せられることであらう。

牡鹿半島各町村道路

改修問題

宮城縣牡鹿郡内各村に通ずる所謂金華山道路の開鑿は、多年の懸案であつたが、縣に於ても莫大な費用を要するので容易に着手の運びに至らなかつた、そこで半島の關

係各町村では半島道路改修組合を組織して改修に要する經費の一部を各町村組合で負擔し縣の補助を得て改修に着手し、數年を費して漸く波ノ波町から萩ノ濱村まで約三里半の山道を車馬の通行に支障ないまでに開鑿したが、萩ノ濱村から大原村に通ずる山道は峠が二つもあつて、殊に小積峠の如きは隧道を穿つの外なく、これが爲には莫大な經費を要するので今日まで中止されてゐたが、このまゝではいつまでも半島方面の開發が出来ぬといふので、今回半島關係町村長が石の巻町と協議して、縣當局に猛運動を起すこととなり石の巻町會議事堂に鮎川、萩ノ濱、大原、波ノ波の各町村長及關係者が會合し、道路改修促進運動の準備中である。

常設道路工夫を置く桃生村

宮城縣桃生郡桃生村の村道改修工事は、三ヶ年繼續事業として工事中であつたが、

常設修路工夫を配置した甲斐あつて、本年中には豫定の全部を完成する筈である。修理の箇所は何れも面目を一新するに至つた、今後は専ら耕作道を改修して、産業振興の促進に努めるとのことである。

關 東 方 面

道路愛護並交通智識普及の爲め活動寫眞班の巡回

茨城縣上市自動車組合及本橋自動車會社では、縣廳土木課、道路改良會茨城支部、警察署、市役所等の後援を得て、地方巡回活動寫眞班を組織し、道路愛護並交通智識普及に關する専門映畫（貴き犠牲、帝都復興の基礎、最近の東京市交通實況、ニューヨーク市交通實況、ロンドン市海陸交通實況上海南京路交通實況）を以つて一般地方公衆の爲めに巡回映寫し、以て所期の目的を

達成せむが爲め社會奉仕的に觀覽料も極めて、低廉に九月十六日より十月十六日まで縣下小學校に於て開催月下巡回中である縣に於ても過般道路愛護會規則を制定し、之が實績を擧げるに力めてゐる折柄なので、道路愛護の觀念を助長せしむるには、頗る結構な催しであるとして後援したわけで警察署も此の機會に於て道路交通取締の必要なる所以を講演する趣である。

東 海 方 面

庄内町の道路擴張

愛知縣西春日井郡水谷庄内町は、名古屋市の發展に伴つて、人口著しく増加し交通亦頻繁となつたので、北部發展策として未だ同町が村制であつた頃、郡の重要道路である市、町界の御幸紡績會社前から庄内川岸に至る道路を、八間幅に擴張したが市内

西區市電江川線淨心終點から市、町界迄の道路は尙頗る狭く、交通上支障が多いので、該道路延長約二百間の擴張實施方を庄内町長から田阪市長に陳情し、市長は鶴飼土木部長等と協議の結果、道路の實地視察を行つたが右は市の道路計劃案に於ても十八間幅の北線に連絡させる様に淨心よりの延長線を引込む豫定なので、その陳情理由を諒として十六年度豫算に計上し、取り敢へず五間幅に擴張して順次八間幅に擴張する方針である。

近 畿 方 面

栗賀村、越知谷間

道路改修問題

兵庫縣神崎郡栗賀村から、越知谷村に通ずる府縣道改修問題に就いて、栗賀村は路線の位置問題で大紛擾を來してゐたが、最

近紛議は益々露骨となつて其の結果折角の府縣道工事も中止されさうな形勢となつた

抑栗賀村民の希望せる路線は、現郵便局の北側を東北方へ直線に計劃されたもので、縣當局も之を承諾をしたとのことである、然るに郵便局より北方の路線である越知川提防道路に至る間に、商家三四十戸もあつて、萬一新路線の開通を見れば全然裏街路となり生活の不安を感ずることゝなるといふので、躍起となつて郡内有志の運動の結果、舊道路に變更するに至り、此様な粉擾が醸されたのである。

縣當局とても道路が人の道である以上、大多數の村民が翹望し又路線としても屈曲のない直線を斥け、婉蜒として迂曲し降雨の時等は直ちに破損を來し、或は交通が杜絶する様な路線を選んだのばどうしたものが。栗賀村としては新道路に對する寄附は厘毛たりともせぬと教圍いて居るから、此の問題の解決は餘程困難と見られてゐる。

大和村の道路修理

兵庫縣加北郡大和村青年團では、村の休日を利用して道路の修理に努め、一週一回の慰安日を愛村奉仕に暮してゐるが、同村中三原少年團員五十二名も不規則に流れ易い暑中休暇を早起會で引き締めて、無理の加げられない程度に毎偶數日の朝四時から六時まで腰に草刈鎌、肩に鍬といふ装で、涼しい間にコツ／＼と路を直してゐる、このいちらしい姿に引き入れられて、若い先生までが家へ歸るのも忘れて終つて、一詣にコツ／＼やつてゐる、此の村には道路人夫が居ないのかと訊くと、此の村に橋尾某と云ふ人が居て灼熱の眞夏もせつせと働いて村人を吃驚させる勤勉さが、やがて青少年團と小學校教員を起つて働かすに至つたのであると青年團の一人が云つた。一道路人夫の無言の勞働の尊さよ。

道路網による幹線工事

十ヶ年計畫で市で設計中

大岐阜市建設の基礎たる、都市計畫道路網は、去る四月上旬岐阜地方委員會に諮問し、内務省に於て原案通り決定せられ、其後市土木課で再び、實地測量をなし年度割豫算を内定すべく、目下課長以下各技師に依つて、夫れ／＼調査中であるが、該道路網は三十七路線、延長實に三萬四千七百九十三間に達し、之れが新設及擴築に要する總工費約千九百萬圓である、従つて繼續年度の如きも三十年を要すると云はれてゐるが、大體に於て事業を二期に分ち第一期事業として、先づ幹線道路の完成を期し明年度より約十ヶ年計畫で、市内線のみを計畫し、接續町村に關係ある幹線路に關しては、知事を執行者として順次豫算編成をなし之が完成を圖るべく縣としては工事遂行に關し、本莊村其他二三ヶ村の岐阜市との合併

を根據する意面である。

四 國 方 面

五十年後の香川縣人口車輛 道路がどう變るか

面白い比較對照表

縣土木課都市計畫係で、調査した縣の人口、車輛、道路などを結び付けて、現在と五十年後の香川縣の状態を比較對照した面白い表が出来て居る。其表に依つて見ると現在縣の人口は七十萬一千五百九人で、過去十五年間の増加比率で行くと、五十年後に於ける人口は、九十四萬二千五十九人、車輛（人力車、自轉車、自動車、馬車、荷車）現在十萬七千百一十一臺五十年後には、三十六萬五千九百十八臺となり、車輛と人とな繋ぐと現在の、三百九里三に對し五十年後は六百里一となり、現在縣道路延長の

四割に當るものが、五十年後には道路の二廻り半に増加することになつてゐる。いま車輛一臺につき人口の割合は八七人であるに對し五十年後には三人に車輛一臺となる而して各車の増加模様は左の如くである。

現在 五十年後

自轉車 六二、九六八臺 二八四、〇六一臺

自動車 二五、二三二 四七、二三二

馬車 四九四 一、六四六

人力車 一、二〇三 一、〇五四

尙車輛と人の比率を示せば

現在 一臺二付 五十年後

自轉車 二人 三人

人力車 五八三人

馬車二、三〇八人 九三八人

牛車 五二三人 一四六人

荷車 一一八人 二〇人

自動車一、四二〇人 五七四人

九 州 方 面

大牟田地方の重要道路 縣より指定さる

大牟田市地方に於ける、自動車道は府縣道を中心に、選擇中であつたが、此程内務部長、土木課長の實地視察に依り、愈具體化し其内、市内上官町通りから三池郡駿馬村に至る縣道、駿馬村藤田より萬田を経て三川町に通ずる縣道、三川町より市内不知火築町通り、日出町より銀水驛前通過瀬高町に至る縣道は、今般重要道路として縣より指定されたので、此等が將來に幹線道路たる地位を占むる譯である。更に都市計畫課に於て慎重審議した、道路網に就き此程内務省に書類を提出したが、はしなくも縣當局と内務省との意見が相違し幹線道路並に道路網の確定に多大の支障を來してゐる

が、兎も角も道路網は今年度内に確定し、年度末迄には、告示をなす運びに、至るであらう。

久留米十字路曲線整理陳情

福岡縣久留米市苧拔川町七丁目の舊縣道と市外荒木村に通ずる新縣道との十字路行當り西側十餘坪は、曲線を描いて居るので、交通上幾多の支障を見るのみでなく、直線道路を高唱して居る今日こゝうした街路を見捨て、なぐのは、町の體面延びては市の體面にか、はるといふので、苧拔町關係代表者は、右の曲線地面の直通買収方を縣當局に對して陳情した。

肥筑軌道の復活を動機に

久留米市の交通聯絡

福岡縣久留米市の交通機關改善問題は、市の發展向上の計劃と相關聯して、最も緊要のものとして一般にその實現が要望され

てゐるが、最近佐賀市肥前軌道の復活と、これに伴ふ電化設計とを機として、現在殆んど廢物に均しき肥前軌道を、長野縣信濃軌道會社重役及佐賀縣の有力者等の協議によつてこれを復活させ、佐賀驛より久留米驛に開通せしめると同時に、これを電氣動力とするの目論見で久留米市に於て、兩三回關係者の協議を試みた結果、久留米市有力者間にも大體に於て、同案に賛助出資の意向あるを確められた。一面此の肥前軌道の久留米市佐賀開通に伴つて、更にその支線を佐賀縣鳥栖町に開通せしめて、久留米佐賀鳥栖三地の完全なる、交通連絡を實現させ様とする計劃があり。これ又有望視されてゐる。然も此の肥筑軌道の復活と電化計劃とに依つて、更に他方筑後軌道との提携問題が企圖される模様がある、殊に久大西線の開通も間近に控へた筑後軌道としては、肥筑軌道の電化開通に依つてそれを合併又は連絡することは或る意味に於て必然

的の事情と有望なる事理を豫想されるもので、近くその關係有力者の協議を見る筈である。久留米市としては他面九鐵急行電車の市内引込延長問題もあり、近く都市計劃指定の實現を見る時期を控へて、これ等交通機關の改善と新計劃的腹案との進行に基づいて市及市を中心とした交通機關改善の實を擧ぐる具體的の計劃に着手する意向である。

